

「結論」を「一つの意見」にする作文指導

——震災後、児童にこれからの生き方を考えさせる——

見 目 宗 弘

第1章 問題は二つの意見文の関係が明確でないこと

意見文には次の二つの定義がある。

〔「国語教育研究大辞典」(明治図書)より〕

○本堂寛氏が定義付けた意見文
・(前略)「意見文」とは、書き手の直接・間接いずれかの体験にもとづく事柄や問題について、書き手自身の考えを書いた文章ということになる。(注1)
○巴野欣一氏が定義付けた意見文
・何かの問題について、自分の考えを理由や根拠をふまえ、筋道立てて述べた文章をいう。(注2)

両者は定義が異なるため、本稿では前者を「意見文A」、後者を「意見文B」と呼び分ける。

両者の違いは意見文で書かれる意見に顕著に表れる。例えば、「意見文A」の意見は次のものである。(「ひろがる言葉 小学国語5下」(教育出版)(平成十六年検定版)の単元「構成をくふうして書こう」より引用、傍線は引用者)

このできごとがあつてから、わたしは、今まで気がつかなかったことが少しづつ見えるようになってきた。その一つは、「勇氣」を出すということの大切さだ。(中略)もう一つ考えたことは、「協力」の大切さだ。(中略)わたしは、これから、父のように勇氣を出して行動していきたいと思う。そうすれば、いろいろなこまったことも、周りの人の協力で、解決していけそうな気がする。(注3)

「意見文A」の意見は複数あり、「結論」と言える特徴をもつ。一方、「意見文B」の意見は、次のように単数で立場を示すものだ。(「新しい国語六上」(東京書籍)の単元「わたしの意見」を書こう)より引用、傍線は引用者)

伝えたいことを説明するときには、なるべくかたかな言葉を使わないほうがよい。(注4)

また、「意見文B」の意見は論証を合わせもつ。論証とは「なぜ」の問いかけに対し、「なぜなら」と答えていく、日常

的に為されるそうしたりすべて」(注5)を指す。引用した後者の意見には「かたかな言葉は、意味が分からないものが多い。(注6)」という理由がセットで示される。

このような違いがあるため、両者は説得性で大きな差異がある。その説得性について、香西秀信氏は『反論の技術―その意義と訓練方法』(明治図書)において、次のように述べている。

【意見文A】の意見への指摘

【指摘1】

「本当に命は大切だと思います」と訴えかけているが、読者は「命は大切だ」ということを知らないと思っているのだろうか。もし知っていると思っているのなら、なぜ殊更それを主張する必要があるのだろうか。(注7)

【指摘2】

(前略)たとえ水口町の全員が読んだとしても、この提案に何か実際の効果があるだろうか。これを読んだ人が、本当にこの提案とおりの行動をしようか。これを読んだ人が、本当にこの提案とおりの行動をしようか。これを讀んだ人が、本当にこの提案とおりの行動をしようか。これを讀んだ人が、本当にこの提案とおりの行動をしようか。(注8)

(指摘2は「わたしは、一日一つのごみ拾いを提案します」という意見への指摘である。)

論証のない「意見文A」の意見は説得性をもつとは限らないのである。

このような違いのある二つの意見文であるが、両者はどのように関わり合っているのだろうか。二つの意見文の関わりが明確になれば、その関わりをもとに、書き手にとって価値のある「結論」に説得性をもたせることができる。

第2章 二つの意見文の違いは社会性

二つの意見文の関係が明確でないのは、日本語の「意見」の概念が広いことによる。概念が広いため、両者の意見文の関係が明確にならないのである。

英語では「意見」が一次言語でかなり細かく使い分けられている。例えば、『小学館ランダムハウス英和大辞典第二巻』の四七八ページ、『小学館ランダムハウス英和大辞典第三巻』(いずれも小学館)の二七五ページには、「意見」を表す「*notion*・*thought*・*idea*・*conception*・*opinion*・*sentiment*・*view*」等の語彙の使い分けが示されている。これらは考えが「確かかどうか」「公的か私的か」という視点で使い分けられている。そこで、日本語の「意見」を「確からしさ」と「社会性」をもとに大きく三つのレベルで使い分ける。次ページの表1中、○は「要件を満たしていること」を表し、△は「不十分であること」を表す。

表1中にある「意見1」は不確かであっても相手を意識しなくとも良いもので、英語の「*thought*」にあたる。「*thought*」は「心の中で考えていく過程に主眼をおき、比較的重要でなく、精緻でないどんな考えをも意味することができる。(注9)」ものである。「意見1」は「思いつき」や「感想」と言えるものである。

「意見1」に対し「意見2」は「まともな考え」である。「意見1」と同じように相手を意識しなくても良いものの「意

表1 【三つのレベルの意見の使い分け】

	確からしさ		社会性	
意見1	△	思いついた考え。	△	独り言でも良い。
意見2	○	まとまった考え。	△	自分だけにどめても良い。
意見3	○	理由とセットの考え。	○	相手に主張する。

見1」より確かさがます。これは英語の「conception」にあたるものだ。「conception」は「完結した、独自の、新しい、あるいは幾分込み入った考えを示す。(注10)」ものである。「意見2」は「結論」や「決意」と言えるものである。

これらに対し、「意見3」はより確かで社会性があるものだ。英語では「statement」がこれにあたる。「statement」は「一つの意見(主張)」「(注11)」という意味であり、一つの立場を示す語である。同義に「thesis」がある。「thesis」には「特に討論して証明したり、反論を克服して主張したりする」議題、陳述、主張。(注12)」という意味がある。

「意見3」は考えの異なった相手の存在を前提としているため、証明や反論の克服等の論証が不可欠となる。実際の場では意見はある範囲でしか、正当性をもたないものになるのだ。

「意見3」は一つの立場を表した「一つの意見」と言えるものである。

先の「意見文A」の意見は「意見2」、「意見文B」の意見は「意見3」であると確認できる。

第3章 「意見2」の社会化による「意見3」への変容

「意見1」から「意見2」へ、そして、「意見2」から「意見3」へと意見が変わるにつれ「確からしさ」や「社会性」の度合いが強くなる。このことから「意見1」に確からしさをもたせれば「意見2」にでき、「意見2」に社会性をもたせれば「意見3」にすることができると考えられる。つまり、二つの意見文は「確からしさ」でつながっており、社会性を高めることで「意見文A」から「意見文B」に変えることができると考えられる。

このように考えると、「意見2」を「意見3」にする学習は次の三つの過程をもつと考えられる。

- 第一の過程……「感想」をたくさんもつ過程
- 第二の過程……確かな「結論」をもつ過程
- 第三の過程……社会性のある「一つの意見」をもつ過程

第一の過程では、児童は話を聞いたり、話をしたり、また、新聞や本を読んだりして、多くの情報に触れ、ちよつとした「感想」をたくさんもつ。情報収集・蓄積の過程である。

第二の過程では、第一の過程で集めた情報を整理、比較、価値付ける中で、「結論」を得る。かつての『中学校学習指導要領

(平成十年十二月) 解説「国語編一」には、その過程が次のように示されている。(傍線引用者)。

(前略) メモしたりカードにまとめたりした後、これらについて取捨選択したり種類別に分類・整理したり系統だてたりすることが必要になる。そして、(中略) どれが重要であるか、また必要であるかなどを判断することが大切となる。このような作業をしながら、自分の考えや気持ちを確認かにしていくことが求められる。(注13)

この過程は、情報整理・集約の過程だと言える。

先に引用した香西氏の指摘はこの「結論」の社会性の欠如を批判したものだ。指摘1は意見の有用性を、指摘2は意見の実行性を、それぞれ問題としている。「結論」は有用性や実行性がなくては、実際には機能しないのである。

そこで、第三の過程では、第二の過程で得た「結論」を他者との関係の中に置き、有用性や実行性をもたせる。

その方法として香西氏が述べているのは「(前略) 教師は、そういう意見文を書いてきた生徒には、それがぐらつくような反論をおつけなくてはならない。(注14)」ということである。反論が示されることで、「結論」は有用性や実行性を検討せざるを得なくなる。

第一の過程から第三の過程まで、順序性をもって指導することで、児童は「結論」を「一つの意見」にすることができるようにになると考える。

第4章 授業の実際

この三過程を含む授業を六年生児童十七名(男子九名、女子八名)に計一三時間行つた。東日本大震災後、困難な状況にありながらも強い心を持ち、気高く生きる人々から多くを学ばせ、これからの生き方について、実行性をもった「一つの意見」を児童にもたせたいと考えたのである。

説明を具体的にするためA児に焦点をあてて授業の実際を示す。(A児の作文については資料1参照)

第一の過程は次の通りである。

【第一の過程】(四時間)

一時間目 8/26(期日は授業を行つた期日である)

・ 東日本大震災ボランティアに参加した人や戦後の復興に関わつた方の講話を聞く。

二〜四時間目 9/14、9/15、9/21

・ 新聞記事や本等の震災後の記事を読み、「感想」を書く。

一時間目は、学区内に住む二名の方にボランティア・ティーチャーをお願いし、講話を聞かせた。

一人の方は東日本大震災のボランティア活動をされた方だ。福島県にボランティアに行かれ、現地へ泥に埋まった写真を拾い集め、それをきれいにする活動を行われた。一枚の写真がとても貴重なこと、また、家族と共にあることがとても価値ある大切なものであることをお話いただいた。

もう一人の方は、戦後の復興に関われた方である。戦後の復興への思いが震災後の復興への思いに重なると思ひ、お話をお願いしたのである。

二〜四時間目は、震災に関する新聞記事や本等を読み、プリントに一行程度で「感想」を書かせた。その際、読んだ記事がABCで三段階評価をさせ、それを交流させ、他の児童の参考になるようにした。教室に持ち込んだ本は七冊、新聞記事は五十八本である。(資料2参照)

A児は次の「感想」を書いた。(九つの感想があつたが他は省略。(一)内のAは児童の記事の評価である。)

- ①震災後、小中学生が毎日新聞を出し続けていて、みんなを元気にしたい思いがすごく伝わった。(A)
- ②短冊に「負けるな日本」という日本へのメッセージがあり、他の国も応援してくれているのだなと思った。(A)
- ③地震や津波の中、消防隊員の人はいくさんの人を助けていて、勇気があり、すごいと思った。(A)

第二の過程の概略は次の通りである。

【第二の過程】(四時間)

五時間目 9/28

・「感想」を整理、比較、選択し、「結論」をもつ。

六〜八時間目 10/5、10/6、10/12

・「構想メモ1」を作り、それをもとに作文を完成書く。

五時間目は、第一の過程で書いたものを仲間分けさせ、整理させた。整理後、一番感動したものを選択させ、その選択をもとに「結論」を考えさせた。六時間目は、「構想メモ1」を作らせ、「結論」を確かなものにさせた。A児の「構想メモ1」は次のものである。

【構想メモ1】

はじめ話を聞いて、生き方について考えるようになった。

なか1 戦後の小学生はとても大変だったと思う。また、震災ボランティアのお話を聞き、少しでも被災地の役に立てるように協力したいと思った。

なか2 気仙沼消防司令の人が強い余震や津波が来る中、たくさんの人を助け、勇気があつてすごいと思った。

なか3 もし、私だったら助けを求めている人を見ても勇気が出ず、助けたいという気持ちはあるけど助けられないと思う。

おわり 助けを求めている人を見かけたらその人を助けてあげられる勇気もてるようにしたいと思う。(結論)

A児の場合、「感想」の③が選択され、それが「なか2」に生かされている。そして「なか2」と「なか3」との比較から「結論」を導いている。七時間目と八時間目にはこの「構想メモ1」をもとに記述させた。

第三の過程は「結論」を「一つの意見」にする過程である。授業の概略は次の通りである。

【第三の過程】(二時間)

九〇一〇時間目 10/20 (二時間)

・「構想メモ2」を作り、それをもとに記述を追加する。

九時間目、A児は次のような「構想メモ2」を書いた。

【構想メモ2】

理由付け なぜなら、すばらしいことができるような人になりたいからだ。(「結論」に続けるもの)

私の反論 勇気をもてるように思うのはすばらしいけれど、勇気をもつのは難しいのではないか。

再反論 私は人を助けることは良いことだし、大切なことと思う。難しいことと思うが、もし、助けを求めている人を見ても助けられなかったら後悔する。

一つの意見 だから、私は助けを求めている人を見かけたら、その人を助けてあげられる勇気ももてるようにしたいと思う。

一〇時間目に「構想メモ2」をもとに追加の記述をさせた。

この後、十一時間目には友人とペアで推敲させ、十二時間目と十三時間目には保護者やボランティア・ティーチャーを招いて意見発表会を行った。

第5章 意見の分析

資料3から児童は平均六、三個の「感想」(「意見1」)をもつことができたことが分かる。新聞記事は小学生には難しい面

もあるが、「感想」を比較的よくもてたと判断する。

「結論」(「意見2」)は「正しい一般化ができたかどうか」で評価する。事例を正しく一般化していると判断したのは、例えば、次のものだ。

【正しく一般化できたもの B児の例】

事例 食料不足の村が日本を支援してくれた。

結論 海外の貧しい村を支援していきたい。

次のように飛躍させすぎたものは、「正しい一般化」とは判断しなかった。

【一般化を飛躍させすぎってしまったもの O児の例】

事例 日本人男性が中国人研修生二〇人を助けた。

結論 大変な時でもみんなと力を合わせてがんばりたい。

この意見は「日本人男性のように人のために尽くしたい」という一般化なら〇だが、事例にない「みんなと力を合わせる」という一般化をしてしまっている。

意見の一般化という視点で資料3を見ると、正しく一般化できた児童が十五名(八十八%)、できなかった児童が二名(十二%)である。「結論」(「意見2」)は概ね良好だと言える。

「二つの意見」(「意見3」)は「結論」(「意見2」)に理由付けと再反論を加えたものである。そのため、理由付けと再反論を評価した。

理由付けの評価は論証の評価である。その評価を野矢茂樹氏は次のように述べている。「一つの意見」においては、理由付

けが「根拠」にあたる。」

論証は根拠と導出を含む全体であるから、その適切さは、適切な根拠から適切な導出によって結論が導かれているかどうかによって評価される。(注15)

評価の観点は「根拠の適切さ」と「導出の正しさ」である。「根拠の適切さ」で「根拠が適切でない」と判断したものは例えば次のものである。

理由付け やさしさは自分に返ってくる。 Q児の例】

結論 男の子のように困っている人にやさしくしたい。

これは、「やさしさは自分に返ってくる」という前提が正しいとは判断できないため、「根拠が適切でない」と判断した。また、「導出の正しさ」は、野矢氏の示す次の判断基準を本実践でも適用した。引用中、Aが根拠で、Bが結論である。

「Aは正しいとしよう。でも、そこからBは結論できないかもしれない。というのも……」という形で疑問を呈する。(注16)

この判断基準で「正しい導出」と判断できなかったものが次のものである。

【導出が正しくなかったもの M児の例】

理由付け 被災した人の方が苦しい生活をしている。結論 感謝の気持ちをもって生活したい。

「被災した方が苦しい生活をしているから、被災した方に立つことをしたい」という「結論」の方が自然だと考えられる。M児の場合は理由付けを「ふだんの生活は多くの人に支えられている」と直す必要がある。

正しい理由付けができたものは例えば、次のものである。

理由付け 困っている人がいたら助けるのは当たり前だ。結論 これから困っている人がいたら助けたい。 C児の例】

正しく理由付けができた児童は十二(七十一%)、できなかった児童は五名(二十九%)である。(資料4参照)また、再反論では、意見の実行性や具体性を評価した。例えば、次のものは正しく再反論ができています。

【正しく再反論できたもの H児の例】
反論 困っている人に優しくするのは難しい。
再反論 話をして気持ち言えば、分かり合える。

「話をする」という具体的な行動が示されたため、実行性をもったと判断できるからだ。だが、資料4のQ児のように立場が示されないものや次のG児の再反論は、実行性をもったとは判断できなかった。

【実行不可能なもの G児のもの】

反論 ふだんは何も考えず行動しているのではないか。
再反論 常にそのことを忘れず行動していきたい。

再反論では、実行性をもって正しく再反論できた児童が十一名(六十五%)、できなかった児童が六名(三十五%)である。

これらの実態から「一つの意見」(意見3)に関わる意見の理由付けや限定は児童にとつて難しいと判断できる。今後、論証部分の指導が必要である。

ただし、再反論において実行性が不十分と判断したG児のものは「結論」(意見2)のレベルで考えたと決意を固くしていると判断できる。また、再反論は教師の反論の仕方によつても変わつてきてしまう面がある。この部分の評価と授業の在り方は今後検討されなければならない。

だが、このようなタイプの授業は初めてだったにも関わらず四十一%の児童が「結論」と「一つの意見」のすべてが○であった(A児、B児、E児、F児、H児、K児、P児である。資料3、資料4参照)。このことから「感想」から「結論」へ、「結論」から「一つの意見」へとという学習は、小学校高学年児童に成り立ちうると考える。この授業は、「意見文A」と「意見文B」とをつなぐ学習になると考える。

(注)

- (1) 国語教育研究所編『国語教育研究大辞典』(明治図書) 一九八八年「意見文」の項の説明p. 四十二
- (2) (1)と同書、「意見文(作文)」の項の説明p. 四十三
- (3) 「ひろがる言葉 小学国語 5下」(教育出版)(平成十

六年検定版)平成十八年六月、p. 六十九

(4) 『新しい国語六上』(東京書籍)平成二十三年二月、七十

一

(5) 野矢茂樹『論理トレーニング』(産業図書)一九九七年

十一月初版、二〇〇五年四月第四十一刷p. 三十九

(6) (4)と同書p. 七十一

(7) 香西秀信『反論の技術―その意義と訓練方法』(明治図

書)一九九五年八月初版、一九九九年十一月四版p. 二

十七

(8) (7)と同書p. 三十

(9) 『小学館ランダムハウス英和大辞典第二巻』小学館ランダ

ムハウス英和大辞典編集委員会(小学館)一九七四年、二

月第一版第一刷、一九七六年四月、第一版第三刷、p. 四

七八

(10) (9)と同書p. 四七八

(11) 『小学館ランダムハウス英和大辞典第四巻』小学館ランダ

ムハウス英和大辞典編集委員会(小学館)一九七四年十月

第一版第一刷、p. 二五四

(12) (11)と同書p. 四一五

(13) 『中学校学習指導要領(平成十年十二月)解説―国語編―』

文部省(東京書籍)一九九九年九月初版p. 三十六

(14) (7)と同書p. 三十四

(15) (5)と同書p. 四十一

(16) (5)と同書p. 六十

(栃木県日光市立落合西小学校)

資料1 児童の作文 A児の例

生き方について考えたこと

私は今回の東日本大震災後、生き方について考えるようになりました。震災ボランティアに参加した方や太平洋戦争の後の大変な時代を生きてこられた方の話を聞いたのがきっかけです。

戦後の話からは、食料不足だったことや小学生が兵隊になるための訓練があったことなどを知り、とても大変だったのだと思いました。また、戦後、当時の大人の人たちが本当に一生懸命働いたのだと思いました。

東日本大震災の話からは、たくさんの方がつらく悲しい思いをしたことを知りました。地震はいつでもどこで起こるのかわからないので、こわいなとも思いました。少しでも、被災地の役に立てるように協力したいと思いました。

その後、教室で震災に関する新聞記事や本を読みました。私は一冊の本と九本の新聞記事を読みました。

一番心に残ったのは、新聞記事の「火の海一進一退」という話です。それはこんな話です。気仙沼消防署の消防司令の男の人が、強い余震や津波が起きる中、たくさんの人を助けるのですが、その男の人が初めて手の施しようのない災害と向き合う話です。余震のたびに川の水位が下がり、津波の危険が高まり、一進一退の攻防でした。がれきの中にいた人を助けたり、大きな火災が起きた建物から女性を助けたりする勇氣があるのはすごいなと思います。

私はその話を知るまで地震や津波などのこわさを知りませんでした。「地震くらいなら被害は少ないだろう」と考えていました。でも、大変な被害でした。私だったら、消防司令の人のようにはできないと思います。助けようと思っても勇氣が出ず、助けられないと思います。

私は消防司令の人のように助けられる勇氣をもとうと思います。助けを求めている人を見かけたら、その人を助けられる勇氣がもちたいです。なぜなら、すばらしいことができるような人になりたいからです。

私のこのような意見に対し、「勇氣をもてるように思うのはすばらしいけれど、勇氣をもつのは難しいのではないか。」という意見もあります。

しかし、人を助けることは良いことだし大切なことと思います。難しいことと思いますが、助けを求めている人を見ても助けられなかったら、後悔します。

私は助けを求めている人を見かけたら、その人を助けてあげるような勇氣がもてるように努力したいと思います。

傍線部分が「結論」の部分、波線部分が「一つの意見」の部分である。

「結論」に理由付けと反論と再反論を後付けて、「一つの意見」とした。

結論 私は消防司令の人のように助けられる勇氣をもとうと思います。助けを求めている人を見かけたら、その人を助けられる勇氣がもちたいです。

理由付けと反論と再反論をつけ加え、「結論」を「一つの意見」に変容させた。

一つの意見

私は助けを求めている人を見かけたら、その人を助けてあげるような勇氣がもてるように努力したいと思います。

資料2 本実践で、授業中用いた資料一覧

新聞記事等

No.	タイトル	出典
1	南三陸の患者守った医師 非常時も「あきらめず」	読売新聞 H23. 8. 31(水)
2	今こそ、がんばらない (鎌田實)	読売新聞 H23. 8. 31(水)
3	海兵隊から元気もらった	読売新聞 H23. 5. 29(日)
4	キルトにつづる希望 世界から激励メッセージ	読売新聞 H23. 4. 29(金)
5	婚約者「守れなかった」	読売新聞 H23. 4. 23(土)
6	避難所の子供 からかうな	読売新聞 H23. 4. 22(金)
7	地元企業 恩返し弁当	読売新聞 H23. 4. 23(土)
8	手書き新聞 米で永久保存 被災の石巻日が発行	読売新聞 H23. 4. 18(月)
9	ラジカセ 短冊に込めた希望	読売新聞 H23. 4. 11(月)
10	人の苦しみは我が身のこと (古北駐日経済文化代表)	読売新聞 H23. 4. 10(日)
11	子に素晴らしい日本を伝えたい／「がんばれ日本」世界中で支援	読売新聞 H23. 4. 4(月)
12	中国人救った不透明男性「英雄」	読売新聞 H23. 4. 2(土)
13	国連が日本応援ビデオ	読売新聞 H23. 4. 1(金)
14	定年目前 決死の交番所長	読売新聞 H23. 3. 31(木)
15	被災した若者たちへ 夢叶える努力諦めないで	読売新聞 H23. 3. 31(木)
16	息子へ「一生懸命でいい」津波で死亡した父から手紙 最後の言葉 胸に卒業	読売新聞 H23. 3. 29(火)
17	海外、広がる日本支援の輪 食料不足の村「豆役立てて」	読売新聞 H23. 3. 31(木)
18	任務支えた妻のメール「信じて家を守ります」	読売新聞 H23. 3. 30(水)
19	助け合いの輪広げたい (ちばてつや)	読売新聞 H23. 3. 28(月)
20	「作業員は英雄」米紙称賛 放射線物質と命懸けの戦い…	読売新聞 H23. 3. 27(日)
21	凍るような海、おなかには小さな命 絶対に生きる」	下野新聞 H23. 3. 26(土)
22	家族の大切さ知った大震災／「日本人の心」を僕たちは大切に	下野新聞 H23. 3. 27(日)
23	別荘使って下さい	読売新聞 H23. 3. 19(土)
24	9日ぶり救出の阿部任さん 寒さ耐え、祖母気遣う	下野新聞 H23. 3. 23(火)
25	人の真価 危機下で知る	読売新聞 H23. 3. 26(土)
26	妻と再会ぬくもり実感「船守る」がれきの海2晩	読売新聞 H23. 3. 25(金)
27	最後まで住民守った 宮城県警官10人死亡	読売新聞 H23. 3. 26(土)
28	被災者10人わたしたちの思い	読売新聞 H23. 3. 25(金)
29	娘へ…最後の手紙 亡き母から「ありがとう」	読売新聞 H23. 4. 1(金)
30	車からガソリン盗む 壬生の駐車場	下野新聞 H23. 3. 17(木)
31	敗戦と大震災	毎日新聞 H23. 8. 25(木)
32	おもちゃ満載 避難所へ 子供を元気に！	読売新聞 H23. 4. 11(月)
33	東北駆けつけた、飛脚の意地！宅配再開へ社員奮闘	インターネットで検索(初出不明) H23. 4. 19(火)
34	「被災者にホカホカ焼き芋を」紙一重で助かった会社員	YAHOO!ニュース H23. 4. 6(水)
35	東日本大震災：町内会長、軽トラで声かけ集落救う…宮古	mainichi.jp H23. 3. 28
36	仙台ニュースの中学生、津波で流されながらも人命救助をする	YAHOO!ニュース H23. 3. 24(木)
37	東日本大震災 命の電柱…13時間半しがみつまま生存	YAHOO!ニュース H23. 3. 28(月)
38	避難所発「ファイト新聞」小中学生6人 毎日発行	読売新聞 H23. 4. 19(火)
39	町民つなぐ手書き新聞	読売新聞 H23. 5. 24(火)
40	夫の服を着て夫捜す／漂流中の夫を保護 気仙沼沖1.8キロ	読売新聞 H23. 4. 3(日)
41	まだ階下に患者が 医師極限の救助結構	読売新聞 H23. 4. 11(月)
42	「ハハはヒーローだね」原発作業員家族の1か月	読売新聞 H23. 4. 10(日)
43	来年の3.11再会誓う 卒業式でさす難ればなれ30人、メールでつながる	読売新聞 H23. 4. 8(金)
44	ランドセル届けたい 市民、企業の提供続々	読売新聞 H23. 4. 6(水)
45	身重の妻残し原発へ「誰かが止めなくちゃ終わらない」	読売新聞 H23. 3. 29(火)
46	想定外 苦闘の救助 岩手に派遣 緊急救助隊	読売新聞 H23. 3. 29(火)
47	惨状スケッチ後世に 南三陸の中1「この町忘れれない」	読売新聞 H23. 3. 28(月)
48	海外から支援物資続々	読売新聞 H23. 3. 28(月)
49	奇跡の1本	読売新聞 H23. 3. 25(金)
50	「大丈夫」前向く住民	読売新聞 H23. 3. 30(水)
51	米中韓の医療隊断る 毛布色まで指定 支援の国々日本に不満	読売新聞 H23. 4. 12(火)
52	火の海一進一退 消防司令「ここで止まる」	読売新聞 H23. 4. 13(水)
53	黒い波 学校のまれた 児童逃がし校長も裏山へ	読売新聞 H23. 4. 10(日)
54	涙あふれた南島の島の島の人の拒否 悲しい	読売新聞 H23. 3. 28(月)
55	間借り校舎 決意の春 母校被災 近隣中学へ	読売新聞 H23. 4. 24(日)
56	訓練はこの時のため	読売新聞 H23. 5. 26(木)
57	崩れ落ちる教室の中で気絶する少女(13)を救い出した瀬内龍虎君「日本一強い男になる」	インターネットで検索(初出不明) H23. 3. 31(木)
58	米国人先生津波の犠牲に 娘の愛読書教え子へ	読売新聞 H23. 9. 7(水)

本

No.	著者	出版社
1	3.11 世界中が祈りはじめた日 PRAY FOR JAPAN	pray for japan.jp 編 講談社
2	Yell! 東日本大震災チャリティーブック	アスコム編 アスコム
3	祈りと希望 いまこそ私たちは共にあるツイッターに広がった感動の言葉251	「祈りと希望」実行委員会編 経済界
4	つなみ 被災地のこども80人の作文集	文藝春秋編 文藝春秋
5	世界が感嘆する日本人へ海外メディアが報じた大震災後のニッポン	別冊宝島編集部 宝島社
6	東日本大震災 心をつなぐニュース	池上彰＋文藝春秋編 文藝春秋
7	3.11絆のメッセージ	亀松太郎他 東京書店

資料3

	感想の数	選択した記事の内容	「結論」と一般化の妥当性	
			「結論」	一般化
A	9	気仙沼消防署の人たちが危険な中、女性を助けた。	助けを求めている人を見かけたら助ける勇気もちたい。	○
B	6	食料不足の村が日本を支援してくれた。	海外の貧しい村を支援していきたい。	○
C	6	小さい子が自分のさいふと貯金箱の中身を全部募金した。	これから困っている人がいたら助けてあげたい。	○
D	6	志津川病院で階下に残した患者たちを救うために津波が押し寄せる中、看護師たちが階下に助けに行った。	助けに行った看護師たちのように人を助けられる人になりたい。	○
E	5	六歳の妹が姉の合格祝を買うためにためていたお金を募金してきた。	この女子のように被災地を助けられることをたくさんしたい。	○
F	5	津波で婚約者を失い、残された者はとても悲しい。	これから困っている人がいたらなるべく助けたい。	○
G	8	津波に流されながらも助かり、赤ちゃんを出産し、新しい命に出会えた。	生きていることを大切にしたい。	○
H	5	エールという本にはつらい時でも助け合って生きている人たちがたくさん書かれていた。	困っている人がいたら、助けられる人間になりたい。	○
I	7	食糧不足の村が豆を送ろうと話し合った。	被災地のためにできることを多くやりたい。	○
J	5	小さい子がコンビニで二千円を募金した。	ちょっとのお金でもいいから募金しようと思う。	○
K	5	日本を支援するため、世界各地で集会や募金活動が行われた。	僕は募金に協力したい。	○
L	5	津波に流され命拾いした。一本の松が残った。犬が屋根の上に登った。残ったもの、生きていることは奇跡である。	命を大切にしていきたい。	○
M	5	九年間いた愛犬を手放してしまった。犬を飼えるのはいろいろな人の支えがあつてのことだ。	感謝の気持ちをもって生活したい。	○
N	6	母を津波でなくし母親の大切さを知った中学生がいる。	<u>原発の被害にあった人や津波の分も努力して生きていきたい。</u> (「家族を大切にしたい」なら○)	×
O	9	日本人男性が中国人研修生20人を助けた。	<u>大変な時でもみんなと力を合わせてがんばっていききたい。</u> (「人のために尽くしたい」なら○)	×
P	7	一年後同級会を開こうと約束し励まし合った中学生がいた。	この中学生のように前向きでいたい。	○
Q	8	津波にあっているのに二人の親子を助けた中学生がいる。	その男の子のように困っている人に優しくしたい。	○

「感想」の合計107 「結論」の一般化 ○15名(88%)、×2名(12%)

資料 4

	「結論」と理由付け	評価	反論と再反論	評価
A	助けを求めている人を見かけたら助ける勇気をもちたい。なぜなら、すばらしいことができるような人になりたいから。	○	しかし、勇気をもつのは難しいのではないか。難しいけれど、助けを求めている人を見ても助けられなかったら後悔する。	○
B	海外の貧しい村を支援していきたい。なぜなら、自分の支援で助かる人がいたらすごいことだと思うから。	○	小学生の支援はたかが知れているのではないか。その支援でも助かる人がいる。	○
C	これから困っている人がいたら助けたい。なぜなら、困っている人がいたから助けるのは当たり前だから。	○	兄弟のように身近な人とはけんかしてしまい助けられないのではないかと。差別なく助けたい。(具体化されていない)	×
D	人を助けられる人になりたい。なぜなら、人を助けることは人としてすばらしいことだから。	○	しかし、危険な時は自分を守ることが先なのではないか。自分を守ることばかり優先して自分だけ生きるよりも人を助けてすばらしい人になりたい。(具体化されていない)	×
E	被災地を助けられることをたくさんしたい。なぜなら、まだ、もとの生活に戻れない人がたくさんいるから。	○	子供にできることはたかが知れている。一つ一つの積み重ねが大切。	○
F	これから困っている人がいたらなるべく助けたい。なぜなら、人を助けることは大切だから。	○	なるべくというのは助けないこともあるということだ。自分のできる範囲で助けたいということだ。	○
G	生きていることを大切にしたい。なぜなら、生きていることを幸せなことだと思ったから。	○	しかし、ふだんは何も考えず行動しているのではないかと。常にそのことを忘れず生活をしていきたい。(具体化されていない)	×
H	困っている人がいたら、助けられる人間になりたい。なぜなら、人に優しくすることはすばらしいことだから。	○	しかし、優しくするのは難しいことではないか。話をすると気持ちや言葉は分かり合えて優しくなれると思う。	○
I	被災地のためにできることを多くやりたい。なぜなら、節約の呼びかけが出ていたから。(誤った前提)	×	しかし、できることはそんなにないのではないかと。少しのことでも節約ができる。	○
J	ちよっとのお金でもいいから募金しようと思う。なぜなら、これから多くは少しでもちよっとのお金でもいいから募金しようと思った。(理由になっていない)	×	ちよっとのお金じゃ変わらないんじゃないか。ちよっとのお金でもたくさんの方が募金すればたくさんのお金になる。	○
K	僕は募金に協力したい。なぜなら、大変な人に協力できるから。	○	小学生の募金はたかが知れている。一円でも大切。	○
L	命を大切にしていきたい。なぜなら、生きていることはすばらしいことだと思うから。	○	命を大切にするとはどうすることなのか。思うだけでも行動が違う。(具体化されていない)	×
M	感謝の気持ちをもって生活したい。なぜなら、被災した人の方が苦しい生活をしているから。(導出の失敗)	×	しかし、毎日の生活は変わらないのではないかと。感謝の気持ちがあれば生活が変わる。(具体化されていない)	×
N	原発の被害にあった人や津波の分も努力して生きていきたい。なぜなら、命は大切だから。	○	しかし、その思いは忘れてしまうのではないかと。被災地を思うたびに命の大切さを思い出したい。	◎
O	大変な時でもみんなと力を合わせてがんばっていききたい。なぜなら、今、被災地の人もみんな協力しあってがんばってるから。(誤った前提)	×	協力は難しい。自分が困っている時、助けてくれる人もいるから助けてあげたい。	○
P	この中学生のように前向きでいたい。なぜなら、前向きでいた方がみんなが明るくなるから。	○	いつも前向きでいるのは難しい。つらい時でも明るく前向きになれる時が来ると思ってがんばっていききたい。	○
Q	その男の子のように困っている人に優しくしたい。なぜなら、そのやさしさが自分に帰って来るから。(誤った前提)	×	優しくするのは簡単ではない。優しくできないからけんかがある。けんかもあっていいし、やさしさもあっていい。(立場が定まっていない)	×
理由付け○12名(71%)、×5名(29%)		再反論○11名(65%)、×6名(35%)		